

動詞「おす」の意味分析

—日本語教育の観点から—

李 澤 熊

キーワード：多義語、多義構造、比喩、コロケーション、誤用例分析

1. はじめに

動詞「おす」(注1)は基本動詞として扱われ、日本語教育において重要な学習項目の1つとなっている。しかし、「おす」は多様な意味を担っている多義語(注2)であるため、その学習指導法というのは必ずしも容易ではない。

さて、現在刊行されている辞典・辞書類を調べてみると、動詞「おす」は多義語として扱われているが、それらの意味を選んで掲げる基準は必ずしも明らかではない。また、当然のことながらそれぞれの意味の相互関係も不明確である。

そこで、本稿ではまず「おす」が持つ複数の意味を記述し、それらの複数の意味の関連性(多義構造)を明らかにする。

次に、以上の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察する。具体的には、各別義における「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、各別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について検討する。なお、「おす」の複数の意味の関連性については、隠喩(メタファー)と換喩(メトニミー)という2つの比喩の観点から考察する(注3)。それぞれの定義は榊山・深田(2003)に従い、以下のように示す。

メタファー：2つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。

「類似性に基づく」というのは、2つの事物・概念に類似性が内在しているというよりも、人間が2つの対象の間に主体的に類似性を見出すことを表していると考えたほうが適切である。(p.76)

メトニミー：2つの事物の外界における隣接性、さらに広く2つの事物・概念の思考内、概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表す比喩。(p.83)

2. 「おす」の意味分析

本稿では、「おす」について9つの多義的別義を認め、考察を行う。

2.1. 多義的別義 (1) (基本義) : <人 [動物] が><他の人・ものに対して><自分から離れるほうに向けて><力を加える>

- (1) 若い女性がベビーカーを押している。
- (2) 犬が部屋の扉を押して、中に入ってきた。
- (3) 宅配の人が、台車を押して荷物を運んでいる。
- (4) 電車の中で、後ろの人に押されて倒れそうになった。

別義 (1) は、人がある対象 (人やものなど) を自分から離れるほうに向けて動かすことを目的として、その対象物に力を加えることを表す。例えば例 (1) の場合、「若い女性がベビーカーに対して、自分から離れるほうに向けて (前進することを目的に)、手を使って力を加える」というようにとらえられる。

2.2. 多義的別義 (2) : <人が><何らかの信号や動力を伝えるために><あるものに対して>< (主に手や指などで) 上や横から><力を加える>

- (5) 右のスイッチを押して、電気をつけてください。
- (6) 呼び鈴を押して、店員を呼ぶ。
- (7) その赤いボタンを押すと、システムが再起動します。
- (8) シンセサイザーの調子が悪くて、鍵盤を押しても音が出ないことがある。

別義 (1) は、単に対象物を主体から離れるほうに動かすために力を加えることを表しているが、この「おす」は、ある対象物に力を加えることによって「その対象物に何らかの信号や動力を伝える」ことまで表している。

さて、この「おす」は「対象物を自分から離れるほうに向けて力を加える (つまり、おす)」という動作によって、「何らかの信号や動力を伝える」という目的を表している。つまり、別義 (1) と別義 (2) は手段と目的の関係にあるととらえられ、換喩 (メトニミー) によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

2.3. 多義的別義 (3) : <人が><印・型を写すために><紙や布などに><圧力を加える>

- (9) 契約書に判を捺す前に、もう一度目を通してください。
- (10) この鉄板は、2000 トンのプレス機械で押して作ったものである。
- (11) お土産に、干支の羊の焼き印を押したカステラを買ってきました。
- (12) 友人に連帯保証人を頼まれたとき、印鑑証明書と実印を捺した書類が必要だと言われた。

別義 (1) は、単に対象物を主体から離れるほうに動かすために力を加えることを表しているが、この「おす」は、ある対象物に力を加えることによって「印や型などを写す」ことまで表している。つまり、別義 (1) と別義 (3) は手段と目的の関係にあるととらえられ、換喩 (メトニミー) による意味の転用であると考えられる。

なお、漢字表記は一般的に「押」を使うが、「印鑑 [はんこ] を捺す」というように、対象物が「印鑑、はんこ」などの場合は「捺」を使うこともある。

2.4. 多義的別義 (4) : <人 [団体・組織] が><自分の意志を通すために><相手に><強く働きかける>

- (13) 自分の考えを強引に押して、相手を納得させる。
- (14) 取引先に、この条件でもう一度押してみましょう。
- (15) 今の政権は、当面は高金利政策で押していくものと見られる。
- (16) 高校時代の恩師とファンの熱意に押しされて、復帰を決断した。

別義 (3) は、ある対象に物理的な圧力を加えることを表しているが、この「おす」は、(言葉などの) 抽象的な圧力を、対象 (人) に加えることを表していると考えられる。ただし、いずれも「ある対象に対して、何らかの圧力を加える」という点では共通している。つまり、別義 (4) は、別義 (3) から隠喩 (メタファー) によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

2.5. 多義的別義 (5) : <人 [団体・組織] が><優位な状況に立って><相手を圧倒する>

- (17) 昨日の試合では、相手に押しされっぱなしでした。

- (18) 前半戦は、日本が強豪イタリアを圧倒的に押していた。
- (19) 一年生のエースは甲子園の雰囲気に押されてしまい、力を発揮することができなかった。
- (20) 政府は世論に押されて、政策転換をせざるを得なかった。
- (21) 昨今は、安い輸入材に押されて国内産の木材が売れなくなってきた。

別義 (3) は、ある対象 (紙、布など) に物理的な圧力を加えることを表しているが、この「おす」は、相手に対して精神的な圧力、つまり、抽象的な圧力を加えることを表していると考えられる。ただし、いずれも「ある対象に対して、何らかの圧力を加える」という点では共通している。つまり、別義 (5) は、別義 (3) から隠喩 (メタファー) によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

なお、この「おす」は基本的に「人 (動物)」に対して使われるが、例 (19) (21) のように、ものなどに対して使われる場合もある。

2.6. 多義的別義 (6) : <人 [団体・組織] が><障害や困難を承知の上で><物事を進める>

- (22) 二人は両親の反対を押して結婚した。
- (23) 天皇皇后両陛下は、高齢を押して海外の御公務に就かれた。
- (24) 政府は国民の反対を押して増税に踏み切った。
- (25) 長野県警山岳隊は遭難者救助のため、風雨を押して山頂を目指した。

別義 (1) は、ある対象に対して具体的な力を加えることを表しているが、別義 (6) は、障害や困難などの抽象的なものに対して力を加えることを表していると考えられる。ただし、いずれも「ある対象に対して何らかの力を加える」という点では共通している。つまり、別義 (6) は、別義 (1) から隠喩 (メタファー) による意味の転用であると考えられる。

また、「(障害や困難などを打破することによって) 物事を前に進める」ためには、「何らかの力を加える」という手段が必要であると考えられる。つまり、別義 (6) は、別義 (1) から手段と目的の関係に基づく換喩 (メトニミー) によっても意味拡張が成り立っていると考えられる。

2.7. 多義的別義 (7) : <人 [団体・組織] が><他の人 [団体・組織・もの] に対して><ある地位・身分にふさわしいものと判断し><その人 [団体・組織・もの] を採るように勧める>

- (26) 審査委員会は、この小説を芥川賞に推すことにした。
- (27) 先日の総会で、現副会長が我が社の次期会長に推された。
- (28) 与党は、幹事長候補者として鈴木氏を推すことに決めた。
- (29) 市民団体は県議会に、名古屋市を環境美化推進地域として推すことにした。

別義 (1) は、ある対象に対して物理的な力を加えるのに対して、この「おす」は人に対して（言葉などの）抽象的な力を加えるという点で異なる。ただし、いずれも「ある対象に対して何らかの力を加える」という点では共通している。つまり、別義 (7) は、別義 (1) から隠喩（メタファー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

なお、漢字表記は一般的に「押」を使うが、別義 (7) で用いられる場合は「推」を使うことが多い。

2.8. 多義的別義 (8) : <人が><あることに対し><何らかの根拠に基づいて><自分の考えを決める>

- (30) 名前から推して、彼の親のどちらかは外国人だと思う。
- (31) 葉の形状から推すと、この植物はバラの一種と思われる。
- (32) これまでに得た情報から推して、近いうちに憲法の改正があるものと見られる。
- (33) 最近の発言から推すと、彼はこの法案に反対のようだ。

別義 (1) は、ある対象に対して自分から離れるほうに向けて（つまり、前に進むように）物理的な力を加えることを表しているが、この「おす」は抽象的な力を加える（つまり、想像力を働かせる）ことによって、自分の考えを決める（つまり、推論を進める）という点で異なる。ただし、いずれも「ある対象に対して（前に進むように）何らかの力を加える」という点では共通している。つまり、別義 (8) は、別義 (1) から隠喩（メタファー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

なお、この「おす」は、基本的に「～からおすと [おして]」という形で用いられる。さらに、漢字表記は一般的に「押」を使うが、別義 (8) で用いられる場合は「推」を使うことが多い。

2.9. 多義的別義 (9) : <時間が><予定より伸びて><遅れ気味になる>

- (34) 時間が押しているので、挨拶は短めをお願いします。
- (35) 雨の影響で、少し作業日程が押している。
- (36) そろそろ時間も押してまいりましたので、次の発表に移りたいと存じます。
- (37) 午前中の予定が押してしまい、イベントの終了時間を1時間延長することにした。

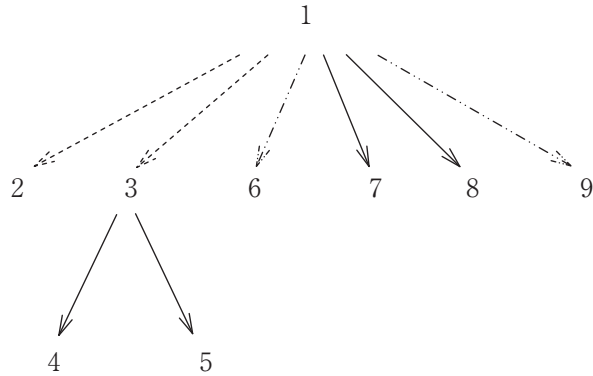
別義 (1) は、ある対象に対して物理的な力を加えることを表しているが、この「おす」は（会議・放送などで予定した時間という）抽象的なものに対して何らかの力を加えることを表していると考えられる。ただし、いずれも「ある対象に対して何らかの力を加える」という点では共通している。つまり、別義 (9) は、別義 (1) から隠喩（メタファー）による意味の転用であると考えられる。

また、この「おす」は、単に何らかの力を加えることだけではなく、予定した時間に何らかの力を加えた結果、時間が遅れ気味になるということまで表している。つまり、別義 (1) と別義 (9) は、原因と結果の関係にあるととらえられ、換喩（メトニミー）によっても意味拡張が成り立っていると考えられる。

なお、この「おす」は本来、他動詞であるものが自動詞として使われているものであり、いわゆる「再帰中間態（国広（1996））」と呼ばれる用法であると考えられる。つまり、「（開始時間が）押している」とは「自らを押している」という意味構造で、表現としては「自らを」が省略されるというものである。こう考えると、「自らを先の時間に押して進める」というようにとらえられ、他動詞として使われる他の別義との関係も明確になる。

以上、本稿では「おす」について、9つの多義的別義を認め、分析を行った。また、別義間の関連性については比喩の観点から説明した。なお、「おす」は以下のような多義構造を成している。

「おす」の多義構造



- 隠喩： —————→
- 換喩： - - - - -→
- 換喩 + 隠喩： ······→

3. 日本語教育の観点からの考察—コロケーションの提示と誤用例分析—

本節では、以上の「おす」の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察する。具体的には、各別義の「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、各別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について検討する。

3.1. 多義的別義 (1)

「コロケーション」

- <もの>を押す：荷車、ドア、乳母車、台車、カート、車椅子
- <方向>に [へ] 押す：右、左、前方、後方、奥
- <手段・方法>で押す：片手、両手、足、体、人力、全員
- <人>と (一緒に) 押す：友達、後輩、仲間、息子、生徒
- <様態>押す：同時に、ゆっくり (と)、しっかり、そっと、力一杯

「誤用例」

- (38) a ? 木を押す。
 b ○木を押し倒す。
- (39) a × 建物を押す。

b○建物を、クレーンを使って押し倒す。

→土に埋まっているなど、固定されていてそもそも動かすことを想定していないものについては使われにくい。

3.2. 多義的別義 (2)

「コロケーション」

<もの>を押す：スイッチ、ボタン、インターホン、キーボード、シャッター、バル

<手段・方法・道具>で押す：指、人差し指、爪先、右手、キー、リモコン

<様態>押す：同時に、ゆっくり、素早く、ちゃんと、思い切り、無理矢理

「誤用例」

(40) a × テレビを押す。(別義 (1) の解釈なら OK)

b○テレビをつける。

c○テレビの電源を押す。

3.3. 多義的別義 (3)

「コロケーション」

<もの>を押す：指印、印鑑、スタンプ、判、割り印、手形

<手段・方法・道具>で押す：自分、単独、判子、実印、印鑑、プレス機械

<様態>押す：再度、確かに、こっそり、ちゃんと、勝手に、無理矢理、強引に

「誤用例」

(41) a × T シャツにチームのシンボルマークを押す。

b○T シャツにチームのシンボルマークを印刷する [入れる]。

3.4. 多義的別義 (4)

「コロケーション」

<人 [団体・組織]>を押す：友達、後輩、仲間、相手国、取引先

<手段・方法>で押す：自分の考え、この案、あの手この手、論理、政策

<様態>押す：無理矢理、強引に、勝手に、もう一度、冷静に、慎重に

「誤用例」

(42) a × 相手を、無理矢理自分の考えを押す。

b○相手に、無理矢理自分の考えを押す。

(43) a? 取引先を、この条件でもう一度押してみよう。

b○取引先に、この条件でもう一度押してみよう。

(44) a○相手を、理詰めで押す。

b? 相手に、理詰めで押す。

→人の他におす「対象」が明示される場合は、「<人 [団体・組織]>に押す」となる。

(45) a? 5歳の娘に、ピアノを習うように押している。

b○5歳の娘に、ピアノを習うように説得している。

→理性的な判断力が乏しい子供などには使いにくい。

3.5. 多義的別義 (5)

「コロケーション」

<人 [団体・組織]>を押す：相手、相手チーム、対戦相手、敵軍、競争会社

<人 [団体・組織]、状態・状況>に押される：相手、敵、野党、雰囲気、気迫、迫力、世論、パワー

<様態>押す：圧倒的に、完全に、終始、簡単に、じりじり、徐々に

「誤用例」

(46) a ×会場の雰囲気が子供達を押してしまった。

b○子供達が会場の雰囲気に押されてしまった。

→この「おす」は、受身の形で用いられることが多い。

3.6. 多義的別義 (6)

「コロケーション」

人 [団体・組織] が押す：選手、社長、政府、自治体、与党

<障害・困難>を押す：病気、熱、怪我、疲れ、反対、高齢、風雨

「誤用例」

(47) a ×太郎は会議に出るために、病気を押した。

b○太郎は病気を押して会議に出た。

→この「おす」は、基本的に「～をおして」という形で用いられる。

3.7. 多義的別義 (7)

「コロケーション」

<人 [団体・組織・もの]>を推す：友人、市長、共産党、小学校、作品、商品
<地位・身分>に [として] 推す：優良図書、天然記念物、候補者、代表、大統領
<場所 (団体・組織)>に推す：自治体、県議会、国、政府、組織委員会
<様態>推す：強力に、強烈に、強引に、無理矢理、思い切って、気軽に

「誤用例」

- (48) a ×彼女を妻 [娘] に推す。
b ○彼女を妻 [娘] にする [迎える]。
→家族・血縁関係の場合は使えない。

3.8. 多義的別義 (8)

「コロケーション」

<こと>から推す：発言、情報、文面、口ぶり、観点、態度

「誤用例」

- (49) a A：彼の親のどちらかが外国人だと思ったのは、なぜですか。
B：？それは、名前から推しました。
b ○名前から推して、彼の親のどちらかは外国人だと思う。
→この「おす」は、基本的に「～からおすと [おして]」という形で用いられる。

3.9. 多義的別義 (9)

「コロケーション」

<時間>が押す：時間、開始、開催日、発売日、予定、日程
<様態>押す：かなり、少し、若干、予定より、大幅に

「誤用例」

- (50) a ? 新刊の発売日が半年も押している。
b ○新刊の発売日が半年も遅れている。
(51) a ○開始時間が10分押している。
b ○開始時間が10分遅れている。

4. まとめ

以上、本稿では動詞「おす」が持つ複数の意味を記述し、それら複数の意味の関連性（多義構造）について考察した。その結果、「おす」について9つの多義的別義を認定することができた。別義間の関連性については、隠喩（メタファー）と換喩（メトニミー）という2つの比喩の観点から考察を行い、9つの別義間の関連性を明らかにすることができた。

次に、以上の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察した。具体的には、各別義における「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、それぞれの別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について検討した。

今後の課題として、「おす」と関連性の深い「ひく」などについても考察したいと考えている。

付記：本稿は国立国語研究所の共同研究プロジェクト『述語構造の意味範疇の普遍性と多様性』において、筆者が担当した『おす（国立国語研究所『基本動詞ハンドブック』（<http://verbhandbook.ninjal.ac.jp/>））を修正・加筆したものである。

注

- 1 「おす」には、「押す」「捺す」「圧す」「推す」という4種類の漢字表記があるが、「おす」の意味の違い（多義的別義）に厳密に対応しているとは言えない。これについて、初山（1994）では、同一の音形に複数の漢字表記が対応する場合について「1つの音に複数の漢字表記があり、漢字表記の違いが意味の違いに関与しない現象」を認めいている。本稿においても、漢字表記の相違にのみ依拠する区分は行わず、あくまでも意味の相違にのみ注目するという立場で、以下の分析を行う。
- 2 国広（1982:97）は、多義語について「『多義語（polysemic word）』とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語を言う」と定義している。本稿においてもこの定義に従う。
- 3 初山（2001:33）は「多義語の複数の意味には相互に何らかの関連が認められるのであるから、個々の多義語の分析にあたり、その関連の実態を明らかにすることが課題となる」とし、「メタファー、シネクドキー、メトニミーという3種の比喩が、複数の意味の関連づけに重要な役割を果たすと考えている」と述べている。

参考文献

- 北原保雄 (2011) 『明鏡国語辞典』第2版, 大修館書店.
- 国広哲弥 (1982) 『意味論の方法』, 大修館書店.
- 国広哲弥 (1996) 「日本語の再帰中間態」『言語学林 1995-1996』, pp.417-423, 三省堂.
- 新村 出 (編) (2008) 『広辞苑』第6版, 岩波書店.
- 松村 明 (編) (2006) 『大辞林』第3版, 三省堂.
- 初山洋介 (1994) 「形容詞『カタイ』の多義構造」『名古屋大学日本語・日本文化論集』2, pp.65-90, 名古屋大学留学生センター.
- 初山洋介 (2001) 「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喻」『認知言語学論考』1, pp.29-58, ひつじ書房.
- 初山洋介・深田智 (2003) 「第3章 意味の拡張」, 松本曜編『認知意味論』(シリーズ認知言語学入門第3巻), pp.73-134, 大修館書店.
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』, 角川書店.
- 山田忠雄・柴田武他 (編) (2012) 『新明解国語辞典』第6版, 三省堂.

例文出典

※本稿における例文は、以下のコーパスを参考にして作った作例である。

- (1) NINJAL-LWP for TWC (<http://corpus.tsukuba.ac.jp/>)
- (2) KOTONOAHA 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>)